



交通権学会ニューズレター トランスポート 21 第 44 号 2011 年 8 月 15 日



1. 新会長就任挨拶
2. 2011 年研究大会・総会報告
3. 2011 年度理事会体制
4. 会員メーリングリスト開設の件
5. 来年度大会について
6. 関東部会予定及び報告募集
7. 特別寄稿
8. 情報
 フォトサロン 思い出の情景
 文末資料(決・予算)

1. 新会長就任挨拶

会長に就任して

日本大学 桜井徹

2011 年 7 月 23 日の総会での理事選出を受けた翌日の新理事会で、会長に選出された。

交通権学会が果たすべき役割と課題は、今日、ますます重要になってきている。

その一つは、交通基本法案が本年 3 月 8 日に閣議決定され、国会に提出されたことである。交通基本法に関しては、すでに、私たちは、交通権学会編『交通基本法を考える』(かもがわ出版, 2011 年)を出版し、わたしたちの考える交通基本法の基本骨格を提示したし、「交通基本法と交通権実現への課題」において、政府提出の交通基本法案の特徴と問題点も論議されたところである。これらで得られた知見が、今後、国会の内外での議論に大きく貢献するものだと思信している。

もうひとつは、本年の 3 月 11 日に東日本大震災とそれに続く原発事故によって、青森・岩手・宮城・山形等の鉄道・道路施設が大きな被害を受け、被災地での、まさに交通権が保障されない状況が作り出されたことである。東京近辺での帰宅難民問題も同様である。こうした危機的状況とそこからの復旧・復興において交通はどうあるべきか、交通権学会も全英知を結集して取り組むべき課題である。

社会から要請されている役割と課題を果たすには、交通権学会の活動はまだ十分ではなく、むしろ、率直に言って、『交通権』への投稿状況、研究大会での自由論題の応募状況および各部会の開催と参加状況は、一部は頑張っていた

いている所もあるが、全体的に低迷気味であることを認めなければならない。

会長として、さらに、1985 年の「交通権を考える会」創立総会に参加し、その後、一時期、事務局長を務めさせていただいたものとして、責任の重さを痛感している。

交通権学会の活動を活発にするために、まず「隗から始める」決心である。理事会で決定していただいたが、当面は、各部会での議論を活発にするためにも、そして、理事会の議論の活発化のためにも、各部会にあわせて「部会理事会」を開催することになった。東日本の部会理事会は、本年 10 月 22 日、来年の 1 月 28 日、4 月 21 日のいずれも 13 時からの開催である。

従来のニューズレターの発行や一般会員にも拡大されるメーリングリストでの意見交流に加えて、部会理事会の開催を通じて、少しでも、社会から要請されている役割と課題に応えるようにしていきたい。来年度の研究大会は、沖縄国際大学で開催される予定である。理事のみなさん、会員の皆様のご協力をお願いする次第である。

2. 2011 年度研究大会・総会報告

2011 年 7 月 23 日に「2011 年度会員総会」が開催され、下記の報告・議事がなされました。

2010 年度の活動について

1. 2010 年度事業報告

(1) 全体

・第 26 回研究大会・総会(2010 年 7 月 17~18 日、日本大学)

・学会誌『交通権』第 28 号の発行

・ニューズレター『トランスポート 21』の発行(計 4 回)

第 40 号(2010 年 8 月 31 日)

第 41 号(2010 年 12 月 15 日)

第 42 号(2011 年 3 月 1 日)

第 43 号(2011 年 5 月 17 日)

大会・総会案内の発送(2011 年 6 月 22 日)

(2)部会関連

・関東部会(2010年10月23日、2011年1月29日、同4月23日 会場は全て早稲田大学)

関東部会では、研究奨励金対象者など、大会報告の予備報告を行っている。

・九州沖縄部会(2010年8月7日、熊本学園大学)(2011年3月19日、熊本県・九州看護福祉大学)

(3)理事会関連

第1回: 2010年7月19日(日本大学)

第2回: 2010年8月

第3回: 同年11月

第4回: 2011年2月

第5回: 同年5月

(以上はいずれも持ち回り)

2. 会員動向

新入会 なし

退会 申し出による: 6名 逝去: 1名

現会員数 正会員 183, 学生会員 11, 賛助・団体
会員 9, 名誉会員 0

計 203名(前回総会比7減)

3. 名誉会員について

申告・推薦なし

4. 2010年度決算報告(文末資料1)

5. 研究奨励助成(2010年度)について

国府田諭会員に授与され、23日に研究成果報告が行われた

6. 国際活動について

7. 創立20周年記念事業について

以上については具体化が進まなかった。

8. 「交通権学会社会貢献賞」について

自薦・他薦ともになし。

9. 日本学術会議に関して

催しの案内や団体調査などが来ており、順次対応していく。

10. 交通基本法制定へ向けたとりくみについて

2011年1月、『交通基本法を考える 人にやさ

しい交通体系をめざして』(かもがわ出版)を刊行。

2011年度の活動に関して

1. 2011年度事業計画

(1)研究関連

研究大会・総会

・第26回(2011年度)研究大会・総会を開催する(7月23~24日 キャンパスプラザ京都)

・第27回(2012年度)研究大会・総会を準備する(沖縄国際大学 7月前半で検討中)

大会準備スケジュールを大幅に前倒しし、2月末までにプログラムを確定する。

大会テーマ、統一論題、主要な報告は年内におおむね決定する。

自由論題も12月末メ切で募集し、2月末には確定する。

・第28回(2013年度)の開催場所を決定する(東北復興の議論も視野にいれて、関東以東での開催を予定)

各ブロックごとの部会活動を行う。

各部会の複数開催と大会報告との連動など研究の質的向上を図る。

(2)創立20周年記念企画

創立30周年記念企画を改めて仕切り直すこととする。

(3)研究奨励基金

宝田惇史会員(東京大学大学院)に支給する。
テーマ「鉄道廃止が表出した地域社会のリスク - 社会的ジレンマと『地域再生』」

(4)社会貢献賞

位置づけなどを見直し基準を明確化するため、今年度は募集しない。

(5)国際活動

より多角的な国際活動を検討する。

(6)その他

ニューズレター『トランスポート 21』の発行年4回発行を維持、内容の充実を図る。

学会公式サイト(ホームページ)の充実。

2. 2011年度予算案(文末資料2)

3. 理事選挙結果について

得票数の上位20名を示す。

近藤宏一, 桜井徹, 安部誠治, 西村弘, 宇都宮浄

人、戸崎肇、青木真美、安藤陽、曾田英夫、森すぐる、香川正俊、榎田基明、藤井憲男、岡崎勝彦、上岡直見、青木俊昭、小山徹、岡本浩、国府田諭、山本雄吾(本人申出により辞退された方あり)

4. 今後の活動の重点について

- (1)交通基本法実現へむけた取り組み
- (2)学会の活性化へむけた議論の開始
- (3)その他



交通権学会 2011 年度研究大会

統一論題「交通基本法と交通権実現への課題」の様

統一論題においては、まず、3名の会員から報告があり、それぞれについて議論がなされた。

まず、西田会員からは、「フランスにおける交通法典の制定」として、フランスで2010年に再編された新しい交通法典の紹介があった。西田会員の報告は、施行されたばかりの動きをタイムリーに追ったものであるとともに、交通権理念は法典にそのまま移行しているという重要な指摘を含むものであった。

上岡会員からは、「交通権実現の政策立案・評価に関する考察」と題して、政府提出の交通基本法と交通権憲章を比較し、より具体的な実体的交通権の確立が重要とした。このたびの交通基本法の案文には、「交通権」という文言は取り入れられていないが、文言として交通権ではなく、今後、財政的な裏付けの下に交通権を実現する施策が求められるか否かという点が重要であると指摘した。そのうえで、特に政策評価を行うことの必要性を述べた。

桜井会員の報告は、以前の民主党・社民党提出法案と政府提出の交通基本法案について、外見的同質性、内容的な異質性という観点から考察した。特に、桜井会員は、政府提出法案において、「交通に対する基本的な需要が適切に充足されなければならない」(法案第二条)という文言に着目し、「基本的需要」をドイツの「公共近距離輸送における地域化法(地域化法)」の「Daseinsvorsorge(生存配慮)」に対応するもの

として、交通権という文言こそないものの、このたびの交通基本法案の意義を強調した。

こうした3会員からの報告に対しては、特に、フランスの交通法典の動きに関して、もし、交通権が、従来の基本的な方向付けという基本法から、拘束力のある一般法の体系に組み込まれたのだとすれば、評価すべきであるが、法律の文案の対象、統合対象となった法律など全体像をみただけでの、法典の意図の確認が必要というコメントがあった。また、交通基本法案における基本的需要とは何をさすのか、シビルミニマムのようなものなのか、議論になった。そのうえで、交通権を考えるうえで、政府法案にある「(交通の)選択に係る競争及び国民等の自由な選択を踏まえつつ」という選択の自由を、基本的需要とどのように調和させるべきかが、質疑を通じた論点として浮かび上がった。

(文責: 宇都宮浄人)

3. 2011 年度理事会体制

2011 年度第 1 回理事会にて下記体制が決定された。(一部確認中)

会務	氏名
会長	桜井徹
副会長	上岡直見, 安藤陽, 香川正俊
事務局長	西村弘
事務局会計担当	近藤宏一
会誌編集委員会	森すぐる, 青木真美, 榎田基明
大会プログラム編集委員会	香川正俊, 照屋寛之, 上岡直見
研究奨励基金審査委員会	安藤陽, 岡崎勝彦, 青木俊昭
ニューズレター編集委員会	上岡直見, 森すぐる
研究企画委員会	桜井徹, 安藤陽, 曾田英夫
関東部会	戸崎肇, 曾田英夫, 大塚良治(幹事)
中部関西部会	可児紀夫, 榎田基明, 青木真美, 風呂本武典(幹事)
九州部会	下村仁士
監事	飴野仁子, 石崎祥之

4. 会員メーリングリスト開設の件

会員相互の交流・情報交換を促進するため、下記要領で ML を開設します。

このメーリングリストは交通権学会の会

則に従い「交通権，交通問題に関する研究とその成果の普及，及び会員の協力と交流」のために開設します。

行事案内、情報紹介、研究・活動上の質問と回答などにご利用下さい。

無関係のメールを誤って配信しないよう操作にご注意下さい。

添付ファイルは当面不可の設定としますが、状況を見て再検討します。

その他、ご意見や判断に迷う場合は事務局にご連絡下さい。

趣旨に同意し登録を希望する方は下記アドレスに ML を受信する自分のメールアドレスと氏名を送信して下さい。迷惑メールと判別のためメールタイトルを必ず「交通権学会 ML 登録」とするようご協力お願いいたします。**office@kotsuken.jp** 氏名のご記入がない場合、会員かどうか判別できないので登録できません。なお、以前の会員調査の時に事務局にメールアドレスを通知された方には事務局から案内を送信するので、それに返信されても結構です。運用開始は8月末を予定しています。

5. 来年度大会について

来年度大会は学会創立以来初めて沖縄(沖縄国際大学)で開催する予定です。現在、実施要領について大会プログラム編集委員会で検討中ですが、台風の来襲等を勘案し実施時期は必ずしも例年と同じでない可能性がありますので、今後のご案内にご留意下さい。

東京から鹿児島まで直線距離で約 980km ですが、鹿児島から那覇まで約 640km、さらに那覇から日本最西端の与那国島まで約 510km という広がりを持つ地域です。もし同じ距離を東京から北に向かえば優にサハリン島を飛び越える距離となります。離島交通など特有の問題もあり、皆様ふるってご参加下さい。

沖縄国際大学 <http://www.okiu.ac.jp/>

6. 部会案内

5.1 関東部会開催案内および報告募集

今年度、交通権学会関東部会は下記のとおり 3 回の実施を予定していますので、会員皆さんの活発な発表を期待しています。

	開催日	募集開始	募集締切り
--	-----	------	-------

第 1 回	2011 年 10 月 22 日(土)	8 月 27 日(土)	9 月 17 日(土)
第 2 回	2012 年 1 月 28 日(土)	11 月 19 日(土)	12 月 10 日(土)
第 3 回	2012 年 4 月 21 日(土)	2 月 4 日(土)	2 月 25 日(土)

時間: いずれも 13 時 30 分から 17 時まで。報告者は原則 1 回 3 名。会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 9 号館 9 階アジア研究機構所会議室。

皆様の積極的な参加をお願いしています。ホットな話題や、結論が未だ出ていない研究で結構です。また、先行研究の調査方法やデータ源の見つけ方、データの処理等、研究の方法論についての議論も行いたいと考えています。議論の材料を提供していただけませんか。いずれの場合も、担当理事・曾田英夫氏あてに 200 字程度の要旨を書いてお申込み下さい。

メール: soda77@jcom.home.ne.jp

住所: 〒359-1146 所沢市小手指南 1-16-4

5.2 九州沖縄部会開催案内

日時 2011 年 8 月 27 日(土) 14 時 ~ 17 時

場所 熊本学園大学 本館 2 階小会議室

<http://www.kumagaku.ac.jp/>

熊本都市バス学園大前バス停下車すぐ

JR 水前寺駅から徒歩 15 分

参加費 無料

報告内容

1. 「大牟田市内の路線バス存続問題の経緯とその後の動き」前田善弘会員(福岡大学附属大濠高等学校講師)
2. 「地方鉄道政策の変遷と地域交通に与えた影響」下村仁士会員(熊本学園大学大学院博士後期課程)
3. 「東日本大震災と交通基本法案」香川正俊会員(熊本学園大学商学部)

5.3 中部関西部会開催案内

2011 年 9 月 30 日 16 時 50 分 ~ 18 時 10 分

京都キャンパスプラザ 5 階第 4 演習室

テーマ 2011 年度研究大会シンポジウムで提起された交通基本法案に関連する「交通権」「移動権」「基本的需要」について

研究大会での議論を踏まえ、会員相互の意見交換の場としたいと考えております。出席希望の方は 9 月 26 日までに同志社大学青木真美までご連絡ください。

maoki@mail.doshisha.ac.jp

7. 特別寄稿

佐々原猛夫さんのご逝去を悼む

理事 安部誠治

交通権学会の「生みの親」とでも言うべき佐々原猛夫さんが、5月1日に逝去された。享年72歳であった。

交通権学会が発足したのは、今を去る25年前の1986年7月のことである。その前年の85年6月に、前身である「交通権を考える会」が結成され、同会を母体に誕生したのが交通権学会である。

交通権学会の母体である「交通権を考える会」の結成は、1984年9月に旧国鉄・和歌山線沿線の利用者たちが国鉄を相手取って、同線に導入されていた割増運賃の返還を求めて起こした訴訟(和歌山線格差運賃返還請求事件)を契機としている。

原告団事務局の佐々原さんから筆者に「交通権問題を研究・検討する組織をつくってもらえないか」との依頼があったのは、提訴から数カ月たった1984年12月のことであった。そこで、故・原田勝正氏(本会初代会長)や故・平井都士夫氏、日比野正己氏などの研究者、岡本浩氏など弁護士、故・下垣内博氏など市民運動家、交通労働組合関係者などの方々とご相談した結果、交通権問題を学際的に研究する「交通権を考える会」を結成することとなったのである。

こうした関係から、「交通権を考える会」そして交通権学会の本部事務局は、現在は移転しているが、発足から20年近く和歌山の岡本法律事務所のなかに置かれていた。当時は、全国学会の事務局が地方都市に置かれるというのは非常に珍しかった。

NHKの職員でもあった佐々原さんには、会の発足時からNHKを退職され、滋賀県に転居されるまでの10数年間、事務局担当として学会運営の実務を担っていただいた。そういう点で、佐々原さんは本会の「生みの親」であり、かつ「育ての親」でもあった。

昨年11月初旬のことであったと記憶しているが、久しぶりに電話でお話する機会があった。そのとき、「交通基本法を考える」を出版することをお知らせし、発売されたらお送りするとお約束した。しかし、忙しさにかまけてこの約束を果たせずにお別れすることになったのは、かえりかえす心残りである。ご冥福を心からお祈りしたい。

8. 情報

交通基本法の国会動向

懸案の交通基本法であるが、法案を審議すべき衆議院国土交通委員会は、国会情勢の混乱もあって2011年6月22日の流会の後、現時点(8月15日)まで開催されておらず審議に入っていない。現状ではこのまま継続審議となり次期国会に持ち越される公算が大きい。

図書紹介(1)

会員の可児紀夫氏が本を出版されました。

可児紀夫『交通は文化を育む-地域交通政策の提言 交通基本法と交通基本条例』

自治体研究社, 2011年3月

ISBN 978-4-88037-565-6

価格 ¥3,000

現代日本の地域交通の現状と課題を明確にした上で、文化を育む交通を誰もが享受できる豊かな社会を実現するため、地域交通を確保する地域交通政策の課題と解決方策としての枠組みを提言する。

【参考】オンライン書店

<http://www.bk1.jp/product/03396650>

図書紹介(2)

交通権学会編『交通基本法を考える 人と環境にやさしい交通体系をめざして』

かもがわ出版, 2011年1月

ISBN 978-4-7803-0410-7

価格 ¥1,470

『トランスポート 21』の原稿を募集中です。

下記にしたがって、ふるってご投稿ください。

・内容: 交通権に関わる身近なニュース、ご意見等。

・締切: 次号掲載分は2011年10月30日

・字数: 図表を含めて4,000字程度。

(参考: 本ニューズレターの1ページを全面文字使用すると約2,100字となります。)

・送り先: 上岡直見 sustran-japan@nifty.ne.jp

・入稿方法

Word および/または Excel で作成されたファイルをメールの添付ファイルとして、上記上岡の e-mail アドレスへお送りください。この時、迷惑メールとの識別のためメールタイトルに「トランスポート 21 原稿」の文字を明記するようご協力お願いいたします。

【注意】

投稿された原稿は査読者により掲載可否の検討をおこないます。その結果により内容の訂正をいただく、または、掲載をお断りする場合があります。なお、査読者により「掲載可」となった後の修正はできません(明白な誤字訂正は除く)。

掲載にあたって、意味内容の変更は要しなくても、表現を変更した方が良いと判断される場合は、編集担当理事および事務局長の判断により、これを変更する場合があります。

印刷はモノクロです(フルカラーではありません)。Excel によるグラフ等の図表については、モノクロでの仕上がりを想定して作成してください。

写真原稿はデータ量を 1 枚 50kbyte 程度に圧縮してください。

お送りいただいた原稿は返却いたしません(発行後破棄します)。

交通権学会ニュースレター

『トランスポート 21』第 44 号
 2011 年 8 月 15 日発行
 発行者 西村弘(交通権学会事務局長)
 編集担当者 上岡直見, 森すぐる
 交通権学会事務局
 〒535-0031
 大阪市旭区高殿 2 丁目 8-28-1519 西村弘
 電話/FAX 06-6922-9174
 e-mail: h-nishi@kansai-u.ac.jp
 学会ホームページ <http://www.kotsuken.jp>

フォトサロン 思い出の情景



白砂青松の JR 気仙沼線
 (2008 年 9 月撮影: 現在は津波の被害により路盤が流失した状態になっている。)

資料 1 2010 年度決算(事業会計, 国際交流, 研究奨励基金, 20 周年特別事業)

この資料は事務局から送付された表をそのまま貼り付けています。

収入						支出					
摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比	摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比
前期繰越金	48,888	-41,364	-41,364	0	-90,252	大会費	280,166	200,000	124,003	-75,997	-156,163
会費	840,000	920,000	870,000	-50,000	30,000	通信費	76,569	72,000	89,920	17,920	13,351
寄付金	0	0	0	0	0	印刷費	0	0	0	0	0
会誌売上	7,500	15,000	10,300	-4,700	2,800	会誌制作費	523,677	500,000	1,060	-498,940	-522,617
受取利息	0	320	0	-320	0	特別事業費積立	0	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0	0	部会活動費	30,000	30,000	29,000	-1,000	-1,000
立替金返還	0	0	0	0	0	国際交流積立金	0	0	0	0	0
						事務費	27,340	60,000	66,638	6,638	
						予備費	0	0	30,000	30,000	
						研究奨励基金へ	0	0	0	0	
						次期繰越金	-41,364	31,956	498,315	466,359	
合計	896,388	893,956	838,936	-55,020	-57,452	合計	896,388	893,956	838,936	-55,020	-666,429

収入						支出					
摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比	摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比
前期繰越金	20,999	20,999	20,999	0	0	国際交流費	0	0	0	0	0
今期繰入金	0	0	0	0	0	予備費	0	0	0	0	0
						次期繰越金	20,999	20,999	20,999	0	0
合計	20,999	20,999	20,999	0	0	合計	20,999	20,999	20,999	0	0

収入						支出					
摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比	摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比
前期繰越金	1,270,029	1,270,029	1,270,029	0	0	今期支給額	0	200,000	200,000	0	200,000
今期繰入金	0	0	0	0	0	次期繰越金	1,270,029	1,070,029	1,070,029	0	-200,000
合計	1,270,029	1,270,029	1,270,029	0	0	合計	1,270,029	1,270,029	1,270,029	0	0

収入						支出					
摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比	摘要	09決算額	予算額	決算額	予算比	前年比
前期繰越金	800,000	800,000	800,000	0	0	次期繰越金	800,000	0	800,000	800,000	0
新規積立	0	0	0	0	0	記念事業支出	0	800,000	0	-800,000	0
合計	800,000	800,000	800,000	0	0	合計	800,000	800,000	800,000	0	0

< 収入 >

・受取利息は、通帳の未記帳のため不明

< 支出 >

・繰り越しが多いのは、2010年度の会誌制作費(約49万円)未払いのため
 ・特別事業費は、20周年記念出版へむけた積立
 ・国際交流は、当面のめどがないため特別会計への繰入を中止

収入		支出	
参加費	60,000	大会事務費	1,998
懇親会残	32,200	大会会議費	0
開催校補助	40,829	大会会場費	27,850
その他収入	0	謝礼	30,000
学会会計補	70,000	開催校事務	203,029
大会費	124,003	予稿印刷費	64,155
合計	327,032	合計	327,032

注: 会場費は2011年度分

残高(費目別)	事業会計	498,315	残高(場所別)	郵便貯金口	51,133
別次期繰越金)	国際交流会	20,999	郵便振替口	3,332,030	
	研究奨励会	1,070,029	現金	-993,820	
	20周年特別	800,000			
	計	2,389,343	計	2,389,343	

注) 郵便貯金口座は今年度出し入れなし。受取利息は決算に計上していないので、昨年度期末残高のまま。現金のマイナスは立替未処理

資料2 2011年度予算(事業会計, 国際交流, 研究奨励基金, 20周年特別事業)

この資料は事務局から送付された表をそのまま貼り付けています。

交通権学会 2011年度事業会計予算					自2011年7月1日 至2012年6月30日 単位:円				
収入					支出				
摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比	摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比
前期繰越金	-41,364	-41,364	498,315	539,679	大会費	200,000	124,003	200,000	0
会費	920,000	870,000	900,000	-20,000	通信費	72,000	89,920	80,000	8,000
寄付金	0	0	0	0	印刷費	0	0	0	0
会誌売上	15,000	10,300	15,000	0	会誌制作費	500,000	1,060	1,000,000	500,000
受取利息	320	0	320	0	特別事業費	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0	部会活動費	30,000	29,000	50,000	20,000
立替金返還	0	0	0	0	国際交流積立金	0	0	0	0
					事務費	60,000	66,638	60,000	0
					予備費	0	30,000	0	0
					研究奨励基金へ	0	0	0	0
					次期繰越金	31,956	498,315	23,635	-8,321
合計	893,956	838,936	1,413,635	519,679	合計	893,956	838,936	1,413,635	519,679

- ・大会費は大会参加費を増額することで一般予算からの支出を削減
- ・通信費は、大会案内などとニュースレターを同時発送することで削減
- ・会誌制作費は二年分
- ・国際交流は見通しが立たないため、ひきつづき繰入を凍結
- ・会誌およびCD-ROM販売を強化
- ・部会活動費は開催部会に必ず支給する。未支給の部会にも活動実績があれば遡及支給
- ・特別事業費の積立は2010年度で終了

2011年度国際交流特別会計予算					自2011年7月1日 至2012年6月30日 単位:円				
収入					支出				
摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比	摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比
前期繰越金	20,999	20,999	20,999	0	国際交流費	0	0	0	0
今期繰入金	0	0	0	0	予備費	0	0	0	0
					次期繰越金	20,999	20,999	20,999	0
合計	20,999	20,999	20,999	0	合計	20,999	20,999	20,999	0

2011年度研究奨励基金特別会計予算					自2011年7月1日 至2012年6月30日 単位:円				
収入					支出				
摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比	摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比
前期繰越金	1,270,029	1,270,029	1,270,029	0	今期支給額	200,000	200,000	200,000	0
今期繰入金	0	0	0	0	次期繰越金	1,070,029	1,070,029	870,029	-200,000
合計	1,270,029	1,270,029	1,270,029	0	合計	1,270,029	1,270,029	1,070,029	-200,000

2011年度20周年特別事業特別会計予算					自2011年7月1日 至2012年6月30日 単位:円				
収入					支出				
摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比	摘要	10年度予算	10年度決算	11年度予算	前年比
前期繰越金	800,000	800,000	800,000	0	次期繰越金	0	800,000	0	0
新規積立	0	0	0	0	記念出版費用	800,000	0	800,000	0
合計	800,000	800,000	800,000	0	合計	800,000	800,000	800,000	0